

ChatGPT等生成AI活用検討プロジェクトチーム 第1回会議 議事要旨

【日 時】 令和5年5月15日（月）14：00～15：15

【場 所】 県庁2号館13階 みどり展望園

【出席者】 知事、プロジェクトチームメンバー（若手職員22名）

＜アドバイザー＞

- ・ 神戸大学大学院国際文化学研究科 村尾 元 教授
- ・ 株式会社エクサウィザーズ 大植 択真 取締役（オンライン参加）

＜ゲストスピーカー＞

- ・ 株式会社時空テクノロジーズ 橋本 善久 代表取締役CEO

1 開会挨拶（知事）

生成AIの利活用について、以下の点について議論していきたい。

- ・ 政府レベルでの利活用の検討を踏まえた対応
- ・ 地方自治体での業務効率化に向けた実証実験の推進
- ・ 個人情報などのリスクに関するガイドラインの制定
- ・ 県内市町間の連携・協力

新しい取組のため、若手職員の様々な発想で、この会議自体をブレインストーミングの場にしていければいいと思う。

2 趣旨説明

【ChatGPT等生成AIの活用】

＜プロジェクトチームの設立経緯と概要＞

- ・ ChatGPTに代表される生成AIの活用策を探り、県としての活用方針を明らかにするためにプロジェクトチームを設立
- ・ チームメンバーは関係課と部局推薦の若手職員22名とアドバイザー2名で構成
- ・ 今秋目途にガイドラインを取りまとめ、公表、共有することを目指す。

＜ChatGPTの特徴や活用範囲＞

- ・ OpenAI社が開発した大規模な自然言語処理モデル
- ・ 文章系、画像・動画系、音声系の生成AIが存在
- ・ ChatGPTの特徴は、言葉の流れや表現方法を理解して自然な会話文を生成することができること
- ・ ChatGPTは、様々な質問に対応することができる。

＜ChatGPTの活用策のアイデア募集＞

- ・ 現在アイデア募集中で、職員から多数のアイデアが集まっている。
- ・ プロジェクトチームで議論し、実証を行いながら活用策を探る。

【ChatGPTについて】

<生産性向上の効果がある>

- ・MITの論文で確認されている

<国内外の動向>

- ・イタリアはアクセス禁止であったが、OpenAI社が対応してアクセス解禁となった。
- ・日本国内では、各省でChatGPT活用に関する検討が始まっている。
- ・東京都なども活用策を検討中

<ChatGPTの苦手分野>

- ・感情的なコミュニケーション、専門的な知識、深い洞察
- ・最終的にミスをチェックするのは人間の役割

<セキュリティリスクへの対応>

- ・入力する情報、出力された情報の両面でリスクがある。
- ・運用ルールに明記して利用者に留意を促す必要がある。

<ChatGPTの業務利用のプロセス>

- ・課題発見・仮説設定は人間の仕事
- ・正確な質問で精度の高い回答を得るスキルが必要

<ChatGPTの活用方法の例>

- ・発想を広げるためのブレインストーミングに有効
- ・たたき台の作成や文章の添削に使える。
- ・作業時間の短縮、作業の効率化につながる。

【AIの活用について】

<AIの活用に関するポイント>

- ・人間とAIが共存する関係を考える。
- ・課題発見、仕上げなど人間が担当すべき領域に人間は注力する。
- ・職員自身のスキル向上が重要である。

<AIの活用事例>

- ・ChatGPTを応用したサービス（例：食べログサイト、家計簿アプリ）が増加している。

<AIの活用の際の考え方>

- ・AIのリスクを踏まえて活用方法を考える必要がある。
- ・AIを使いこなすための学習をすることが必要である。

3 プレゼンテーション（株時空テクノロジーズ）

『生成AIが拓く新ビジネスの可能性と「ログミーツ」について』

【AI言語処理の進化】

<今は人類史の転換点>

- ・AIの急激な進化が起きている。
- ・これは「カンブリア爆発」に例えられる。
- ・カンブリア爆発と同じことが生成AIで起きる。

<画像生成AIの進化>

- ・生成AIでは先行して画像生成AIが進化。Midjourney、StabilityAIなどが有名
- ・直近の9ヶ月だけでも驚異的な進化を遂げている。
- ・人の描写が苦手だったが、今ではリアルな人物画像を生成できる。
- ・ウェブサイトやホームページのデザインに使われるようになっていく。

<ChatGPTの進化>

- ・ChatGPTは文章生成や要約に使われるが、プログラミングもできる。
- ・AI言語処理の進化においても画像生成AIと同じことが起きる。
- ・現時点で正確性に欠けるなどと判断してもあまり意味がない。

【サービスの背景<皆さんのChatGPT導入時のお悩み>】

- ・今多いのは次の3つの悩み。
 - ・使い道がわからない。
 - ・使いこなし方がわからない。
 - ・セキュリティ上の懸念がある。

【GPT活用統合事例<ログミーツのサービス>】

- ・知識ゼロでも、多様な機能をワンクリックで使えるようにする。
- ・文字起こしとAI要約を組み合わせることでスムーズな処理を提供する。
- ・セキュリティ対策を施し、自治体にも導入される信頼性の高いサービスになっている。

【ログミーツのデモンストレーション】

<ChatGPTの使用イメージ>

- ・箇条書きや要約のボタンを一つ押すだけで、回答が生成される。
- ・文字起こしだけでなく、翻訳なども可能で、細かい要件にも対応している。

【生成AIの業務改革への応用】

- ・現状のAIの認識範囲を超えて、機能が拡大していく。
- ・ドキュメント、顧客管理情報、チャットツール等へ接続対象が拡大していく。

【GPT等を使った事業発案の提案】

<事業対象の選定>

- ・場面を起点にする例
- ・部門や産業別に考える例
- ・課題や業務サポートなどを起点にする例

<ログミーツの処理例>

- ・部門名やテーマ別の課題の列挙が容易になる。
- ・AIを活用した提案を受け掘り下げていく。
- ・事業工程の細分化や事業計画の段階からAIが伴走していく。

【まとめ】

- ・AIが「カンブリア爆発」を迎え、転換点が来ている。AIの技術は更に進化していく。
- ・AIの課題を挙げるよりも、未来を予測して先を見据えた活用方法をとるべきである。
- ・まずは慣れ親しみ、どんどん触れることが重要。

4 意見交換

【発言者1】

- ・ ChatGPTなどの技術の進歩を実感、今後に期待
- ・ 教育・学習面では子どもたちに利用方法や使い方を正しく指導することが重要

【司会】

(村尾アドバイザーへ) 自由な発想を活かした使い方をしている学生等はいるか。

【村尾アドバイザー】

- ・ ChatGPTを用いた感情表現シミュレーションをやっている学生がいる。
- ・ 学内で「DXプレイグラウンド」としてChatGPTの活用方法を様々に検討している。

【発言者2】

- ・ 活用可能性のあるツールであるが、情報漏洩等のリスクもある。
- ・ 適切な回答が得られるような使い方が必要

【司会】

(大植アドバイザーへ) リスク管理についてどのような点を重視する企業が多いか。

【大植アドバイザー】

- ・ 企業特有の情報や個人情報の保護
- ・ 運用で対応方法を周知するほか、ChatGPTの入力時にNGワードを設定することも可能

【司会】

(大植アドバイザーへ) NGワードは具体的にどのようなものか。

【大植アドバイザー】

- ・ 銀行口座やマイナンバー、氏名に関連する言葉などのブロックが考えられる。
- ・ システムでの完全ブロックは難しく、運用やユーザー教育とセットにする必要がある。

【発言者3】

- ・ 要約や情報収集では業務効率化に貢献すると感じた。
- ・ AIをサポートとして活用する視点が必要
- ・ 使い方などのルールを明確にする必要がある。

【発言者4】

- ・ ChatGPTの活用目的が明確になっているか考えることが大事
- ・ 発案から伴走も含めた運用面の検討が必要

【村尾アドバイザー】

(橋本ゲストスピーカーへ) 先ほどのログミーツのデモのように機能させるためのプロンプト作成の工夫について教えてほしい。

【橋本ゲストスピーカー】

- ・ ボタンの裏側にプロンプトを仕込んでいる。
- ・ AIをうまく使用するためには適切な質問を提供することが必要
- ・ プロンプト作成には一定の技術が必要

【発言者5】

- ・短期だけでなく、長期の視点も持って、今後の議論を盛り上げていきたい。

【発言者6】

- ・AIに任せられる仕事は任せることで、時間を課題発見に充てることができる。
- ・担当者が自発的に課題を発見し、解決する仕組みができるとうい。

【司会】

- ・今日は時間の制約で皆さんに発言いただけなかった。
- ・次回以降、皆さんに発言していただくようお願いする。

5 最後のコメント

【村尾アドバイザー】

- ・DXには3つの段階がある。第一のデジタルイゼーションは文書の電子化、第二のデジタルイゼーションは業務プロセスの高度化、第三のデジタルトランスフォーメーションが業務そのものの見直しである。
- ・ChatGPTはDXの各段階に使える大きな武器になる。
- ・大学、行政、企業などいろんな主体が集まる議論の場を作ることが重要

【大植アドバイザー】

- ・生成AIを「使うか使わないか」ではなく「どう使うか・活かすか」がポイントとなる。
- ・プロンプトの工夫が重要。プロンプトを共有する仕組みを作ることも重要
- ・プロンプトが業務の中で効果を発揮することがわかれば、生産性改善につながる。
- ・AIは生産性向上だけでなく、創造性の部分も強い。AIには代替できない人間の好奇心や意志を活かすことが重要

【橋本ゲストスピーカー】

- ・生成AIを「使うか使わないか」の議論ではなく「使うしかない」と思う。
- ・GPTは微調整オーダーを何回出しても、怒らず対応してくれる。
- ・画像、音声、動画などをつなげることで、便利に活用できる。
- ・例えば本日の会議の見出し付き箇条書きも、会議が終わる前にすでに作成されており、文字起こしの精度が高い音声環境であれば、微調整の必要がない場合もある。

【知事】

- ・まるで手塚治虫の「火の鳥」の未来編のように、人類の生活や政府の決定もコンピュータに委ねるような未来が少しずつ現実になって来ている気がする。
- ・生成AIの活用により人海戦術的にやっていた業務を洗い出し、効率化する方法を検討していくことが大事
- ・会議を月1回は開催し、アイデア出しや討議を行ってほしい。
- ・各部署から活発に問題提起し、洗い出した課題の見える化を進め、政策決定過程に乗せていくことが重要である。

(以上)